

なるというところをぜひ進めていただきたいんですが、あんまりその気がないようですが、ぜひその気があるようになっていただきたいなというふうに思います。せつかく脳活のほうをやっていますので、教育委員会でもそういうことを利用してお願いしたいと思います。

最後に、市長に伺います。教育委員会では、マンパワーとか予算とか、そういうものがないとなかなか動けないと。だからあんまりどうも納得できないようなお答えしかいただけなかったのかなと思います。お金とか職員の配置とか市長部局で予算化とか人員とかが関連していると思いますが、やはり教育長は、そういうことで足かせになってなかなかかかと思いがすが、市長はどのようにこの読書活動を進めて、図書館の来館者、貸出冊数をふやすに、最後のマンパワーのところですが、市長の考えを伺いたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 教育長の擁護をするわけじゃありませんが、弁護するわけじゃないんですが、やっぱり図書館は教育委員会と実際離れているわけですね。確かに指導、管理はしてるわけですが、そういった意味でちょっとなかなか一体感がないのかなというふうに思いました。ただ、議員からもありましたけれども、今度新しくつくる多機能型図書館になりますと、かなり環境が変わるんじゃないかと。今の図書館は、やっぱりつつじ公園の片隅にぽつんとあって、車もとめるスペースも少ないですし、あと、蔵書もいろいろ工夫した割には古いものが結構多くて、ちょっと来館者が少ないのかなと思ってます。

ただ、議員おっしゃるように、読書活動の推進については、まだまだ、かなり指定管理者のほうで頑張っていますけども、努力が必要なのかと思っておりまして、どのぐらいの業務量になるか、そういったところを図書館側と、あ

と、教育委員会側と協議していただいて、推進業務をどうするかと、ソフトをいかに充実を図るかということも検討していかなきゃいけないと思います。やはり宇津木議員は図書館長も経験していらっしゃるんで、その辺は、いろいろ適切なご指導をいただいて感謝しております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 市長のわかりやすくて、これから新図書館が建設されて期待される答弁、ありがとうございます。平成21年に図書館が指定管理になったときの最大の課題が、教育委員会が図書館に任せっきりにするなという議会のお話をいただきました。議会では、指定管理になってしまっただけで指定管理者に全て任せるのではなく、教育委員会がかかわってしっかりと図書館の運営をするよということにすることで指定管理をお認めいただいたと私は図書館長のときに感じましたので、その議会の意向というものを教育委員会ではきちっと守っていただいて、よりよい図書館運営でたくさんのお客様、貸出冊数がふえるようにぜひお願いして、質問を終わります。ありがとうございます。(拍手)

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午前11時58分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位3番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 暑かった夏もあっという間に通り過ぎ、スズムシが鳴く季節となりました。野菜の高騰で、私の場合ですが、畑がありながら野菜を買っている者にとっては家計費を圧迫するものです。今までは父や母のつくってくれた野菜は当たり前のように思っておりましたが、ことし父が他界し、今、母が施設でお世話になっている現在、両親の存在はもちろんですが、日々口に入る野菜が自家製である安心感に、改めてありがたいものだと思います。

それでは、9月定例会の質問に入らせていただきます。明確なご答弁よろしくお願ひいたします。

第1項目、観光振興事業、広域観光事業におけるインバウンドの受け入れの施策を商工観光課長と市長にお伺ひいたします。

6月定例会におきまして、商工観光課長より台湾への観光誘致のために今回の訪問団の旅費が計上されたことが説明されました。宇津木委員の予算総括質疑に対しての市長の答弁は、余り乗り気ではなかったような印象を個人的に受けました。実際に8月22日から8月25日の4日間滞在されての手応えや全体の印象はどうだったのかを市長にお伺ひいたします。

このたびの訪問メンバーを教えてください。インターネット上で確認しますと、飯豊町観光協会、長井市観光協会、小国町観光協会、米沢観光物産協会、南陽市商工観光課、米沢市観光課となっておりますが、長井市長、長井市商工観光課の名前はなかったのですが、私が検索した件は、長井市が訪問した件とは違うものなのか、同様であったのか、ほかに何か理由があるのでしょうか。また、同様の件とした場合、ほかの市町村も観光協会のほかに行政も参加さ

れたのでしょうか、商工観光課長にお伺ひいたします。

また、今回、置賜さくら回廊ということで皆さんで誘致に行かれたとお聞きしておりますが、長井市独自でインバウンド事業を今後どのように展開していくのでしょうか。あくまでもさくら回廊として置賜全体で行うことを前提として考えているのか、市長はどのようにお考えでしょうか。組織として、置賜地域インバウンド促進会議というものがあり、小国町観光協会長が会長となっておりますが、長井市も会員になっているのでしょうか。なっているとすれば、いつから、また、どのような活動内容を行っているのか、今までの成果などわかりましたら商工観光課長にお伺ひいたします。

ご存じとは思いますが、台湾観光の受け入れは飯豊町観光協会さんが大分前から取り組んでおられます。中津川には農家民宿が数軒あり、旅行者が宿泊され、田舎暮らしに喜んで帰られるそうです。また、受け入れる農家の方も、高齢ではありますが、自慢の料理を食べていただくことで生きがいを感じておられるとの話も伺っております。もし長井市独自でインバウンドを受け入れるのであれば、私が考えるまでもありませんが、自然豊かな長井ダム周辺観光から三階滝、そして古代の丘の土偶広場コースや伊佐沢地区の大石や不伐の森など、自然にあふれ、魅力的なところは幾らでもあると思います。また、民宿を展開するにしても、まず市民の方々に趣旨を説明し、やる気のある市民の方を募集した上で、資格を取るための補助を行い、1軒でも多く民宿が開業できるように皆さんに興味を持っていただき、長井のよさを最大限にアピールし、リピーターをふやす施策を今後考えるべきではないでしょうか。その際、現在、各地域にふえつつある空き家の利活用も含めて考えてはどうでしょうか、市長の考えをお伺ひいたします。

続きまして、第2項目、学童クラブの施設整備についてお伺いいたします。

子育て支援課長にお伺いいたします。

市内では、今現在7カ所で学童保育を行っています。長井市の学童クラブの利用料金は月5,000円とお聞きしておりますが、ほかの市町村と比べた場合、当市の利用料金は低額なほうなのか、県内13市町村や置賜地域での比較はどの程度なのでしょう。また、民間で開設しているめぐみ学童クラブやあやめ学童クラブの利用状況や利用料金を教えてください。この2つのほかに民間の学童クラブはありますか。

私は、先日、伊佐沢学童クラブ、中央学童の南、北学童クラブの3カ所を見学させていただきました。子供たちは、ただいまと言って入ってきたので、家庭のかわりに居心地のいい場所になっているのかと、ちょっと安心したところでした。しかしながら、地域ごとに当然のようにそれぞれ特徴があり、伊佐沢学童クラブについては、新しいこともあり環境が整っており、学童17人に対して支援員3人体制とのことでした。中央学童クラブの北学童クラブについては、104人に対して支援員9人ということで、てんやわんやの状況に見えました。この実情をどのように思われますか。

また、学童の数に対しての支援員の数はどうなっているのかもお聞きします。長井市が定めている児童数に対しての支援員の配置について、どのようになっているのかも教えてください。

また、訪問してわかったことですが、支援員の方の中には、男性が南学童クラブ、北学童クラブにお一人ずついらっしゃいました。私が知らなかったみたいですが、学童の反応はどうか気になりましたが、中には、将棋を指したりして、お互いのコミュニケーションがよくとれていたように思います。私は、とてもいいことだなと思いました。家庭にはお母さん、おばあちゃんだけでなく、お父さん、おじいちゃんもい

るところがあります。また、不審者対策にも心強く、いろんな意味で必要なのではないかと思います。男性の雇用については今後の対応はどうお考えでしょうか。また、7カ所の学童クラブが集まっての情報交換、学童クラブと学校との連携、学童クラブと家庭との連携、また、三者同時の連携はあるのでしょうか。あるとすれば、窓口はどこが所管するのか、具体的に教えてください。

次に、市長にお伺いいたします。

北学童クラブについてお聞きします。北学童クラブは、利用する子供たちが多く、雨が降ると遊ぶ場所がないので、狭い廊下を走り回る、走ると怒られる、怒る支援員と怒られる子供たちはストレスがたまる、そんなマイナスの連鎖になっているのではないかと思います。その現状は市長は把握しているのでしょうか。今後、生徒数が減少し、空き教室がふえることも考えられ、空き教室を利用しての学童クラブは今後も必要かもしれませんが、平成28年度の長井市の主要な施策の成果報告にもあるように、学童クラブの利用希望者の増加が予想されるため、施設を含め運営の検討が必要であるとの報告でした。生徒数の減少以前に、現在の子供たちの環境が変化しているのではないかと考えます。そこで提案ですが、複合施設の中か、施設の近隣に西学童クラブを開設することは不可能なのでしょうか、市長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

大きく2点ご質問いただきまして、まず最初に、観光振興事業、広域観光事業におけるインバウンドの受け入れの施策はということでございます。

まず最初に、鈴木議員から、このたびの台湾

への訪問で手応えと印象はどうかのと、余り乗り気ではなかったんじゃないかというようなことでもございましたけれども、正直なところ私はちょっとインバウンドについては勉強不足ですし、あと、市の商工観光課あるいはやまがた長井観光局とインバウンドについての議論を深めてない、計画もまだ立てておりませんし、当然戦略的なものがまだはっきりしてない状況で台湾に行くのはどうかなということでの自分の気持ちだったんです。今回は、南陽市、白鷹町さんと一緒にやってる置賜さくら回廊で昨年、観光協会のほうの職員と2市1町の職員なども台湾のほうに行ったようでございますけれども、ぜひ置賜の市長、町長は全員行ってほしいということで今回お誘いがある、勉強させていただいたところでございます。

まず、台湾訪問の内容をご説明申し上げます。

内容としては、大きく2点ございまして、まず1点目が、台中市の有力スーパーである株式会社裕源という非常に高級食材、当然台中なんかはお金持ちが多いまちだなと思いました。あと、日本人も大勢いらっしゃいました。単価が非常に高いんですけども、そこのスーパーのほうにお邪魔しまして、観光、物産の営業活動といたしまして日台の経済交流の実力者である謝さんという社長さんと懇談しまして、つぶさに店内の一つ一つの品物とかやり方を勉強させていただきました。これはびっくりしたのは、日本以上に有機とか無農薬とかそういったもの、あと、養殖の魚はうちは置いてないと、必ずホルモン剤を使っていますよと、そういったものはうちではしないんだと。ちょっと鮮度が落ちたら加工して売るあるいはそれを冷凍するということなどを徹底しておりまして、びっくりしたのは、肉については、自社でハムにしたり、ソーセージ、ウインナーにすると、そこまで徹底しておりました。

そこで意見交換を行ったんですが、訪問した

スーパーの商品構成は日本の商品に特化したもので、台湾の富裕層は、有機、無農薬、無添加の商品の需要があり、日本の商品は非常に有望ということでもございました。このたびは、早速、相当数のけん玉のご注文をいただき、今後は、山形のおいしい果物の取引をぜひ広げていきたいということで、社長のほうからもぜひということのお話になりました。また、この謝社長さんには日本各地からトップセールスが相次いでおりまして、東北も宮城県、秋田県、青森県の知事とか市長さんとかがいまして、カタログに載ってました。特に西のほうがもう軒並み知事のカタログ、顔入りの写真で、こういうものを、例えば愛媛のこういったものとか熊本のこういったものとか、すごいびっくりしました。ぜひ県知事あるいは県内の市町村との連携によりまして大きな枠組みで営業する必要性を感じたところでございます。

2点目が、台湾への旅行会社へのプロモーション活動でございます。滞在4日間で計14社の旅行会社や2社のランドオペレーター、これは旅行会社の依頼を受けまして、旅行先のホテルやレストラン、ガイドやバス、鉄道などの手配、予約を専門に行う会社を訪問いたしました。訪問メンバーについては、後ほど商工観光課長より答弁いたさせますが、各訪問先ごとに班分けをして営業活動を展開してまいりました。また、ことし2月に置賜さくら回廊事業のファムトリップツアーにおきまして下見にいらしたということなんですけども、置賜地域の現地視察をいただきました旅行エージェント各社を招待しての交流会を開催し、置賜地域へお越しいただいたお礼と今後の置賜への旅行商品開発に向けての意見交換をさせていただきました。

印象といたしましては、これまでは3市4町の観光協会を主体として営業活動を行ってまいりましたが、やっぱり台湾とか中国は行政のトップが訪問するのが儀礼っていいですか、なら

わしだということなものですから、長井市のインバウンド観光に取り組む姿勢を示すことができたのかなと思っておりますし、旅行会社各社にも好印象を持っていただくことができたと感じております。

また、具体的な旅行商品としては、私が直接ではございませんですけども、職員などから聞いた話では、フラワー長井線の食堂車や桜の観光について非常に好印象だったということがございます。台湾の方は花がお好きで、特に、あたり一面を一色で染め上げるような景色が好きだということがございます。長井市の桜、白つつじ、あやめを初めとした花公園やまちなかを彩る花いっぱい事業の拡充にお客様をお呼びできる仕組みづくりを検討してまいりたいと思っております。

さらに、台湾人の観光客は、日本の主要な観光地である東京、京都、大阪、北海道などへ複数回来られたお客様が多くございまして、ようやく東北に目を向けていただいているということがございますけれども、全国的には団体旅行が減少傾向で、国内は個人旅行者、小グループなどが増加しているということがございますが、東北は依然として団体旅行が主流で、東北に求められているのは、東北ならではの目玉商品、地方、田舎ならではの体験を30名から40名の団体で受けられる環境であり、台湾人は人のつながりを何よりも大切にしますので、今後も信頼関係を構築いたしまして、ニーズに対応した環境整備、商品開発により訪日観光客の増加を目指してまいりたいと思います。

2点目でございますが、置賜さくら回廊はもちろんだが、長井市でも独自でインバウンド事業を今後展開していくのかということがございます。

インバウンドの事業につきましては、山形県が全国の中でも圧倒的に少ない県の一つでございます。毎日外国人見かけるなんていうこと

では全くありません。ぴんとこないんでしょうけども、名立たる観光地は、東北でも仙台あるいは岩手とか結構いらっしゃいます。これからどんどんふえるものだろうと考えておりますので、私どもにも回っていただくような取り組みをしっかりとしていかなきゃいけないと考えております。まず基本は、議員おっしゃるような3市4町で構成している置賜地域のインバウンド促進協議会でも引き続き事業を展開しまして、広域連携での旅行商品のプロモーションを継続していきながら、長井市独自でも営業活動を行いながら、観光客にその後、飯豊町に回ってもらう、逆に飯豊町にいらっしゃったお客様を長井に回ってもらうなど、そういった広域での連携が重要だと思っております。

長井には、午前中の質問でもあったように、長井ダムの百秋湖とか三淵の溪谷や三階滝あるいはつつじ、あやめなど非常におもしろい観光資源がたくさんありますので、ぜひ今後、具体的な計画等々を立てながら魅力ある商品づくりと同時に、ご承知のとおり、総合政策課のほうにC I R、国際交流員です、バングラデシュ系のイギリスの方にいらしていただいております。あと、ALTも8名いらっしゃっておりますので、SNSをぜひご協力いただいて、インスタとかフェイスブック等々で発信していただけるような、あるいは我々が気がつかないような外国人の視点からの観光の体制づくりを行っていきたく思っております。

この項の最後でございますけれども、事業をしていく上で民宿など空き家の利活用をできないかということのご提言でございます。議員おっしゃるとおり、民泊をしていただければ滞在時間が延びまして、地域への経済波及効果がさらに期待できるものになると思います。ただし、民宿ができる施設には旅館業法の許可が必要となりまして、さまざまな越えなきゃいけないハードルがございます。例えばトイレの設置

でございますが、男女別のトイレが必要であるとか、あるいは手洗いはトイレの外に必要であるとかそういったもの、一例でございますけども、クリアするためにいろいろリフォームをする必要がございます。水回りのリフォームだけをとっても数十万円、100万円以上の費用がかかる可能性があることから、課題はたくさんあるなと思っております。

今後のインバウンドを受け入れる体制づくりを検討していく中で可能性を探っていきたいと思っておりますが、聞くところによりますと、例えば飯豊町の農家民宿も高齢化でなかなか後継者が育たないというような話も聞いております。したがって、長井の場合は、空き家を民宿までしなくても、ゲストハウスみたいな形で、ちょっとこれはもちろんリニューアルも若干必要ですが、素泊まりで貸すあるいは朝食だけ提供する、あとは、まちなかに行って食事してもらう、あるいは仕出し、出前をしてもらうというところで行っているところがたくさんもう出てきておりますので、長井もまちなかに、あるいは周りの地区についても、例えば1軒の農家でも田んぼの中の農家の一軒家というのも人気があるというふうに聞いてますし、いろんな取り組みができるんじゃないかなと思っております。

続きまして、2点目でございますが、私のほうからは、中央学童クラブの北学童クラブの現状を把握してるのかということと、北学童は今度計画しております長井駅周辺の複合型施設の中か施設の近隣に開設できないかというようなご提言でございます。

まず最初に、北学童クラブでございますけれども、長井小学校の第3校舎を利用しているのはご存じのとおりでございます。基本的には自分のクラスで過ごしますが、廊下が狭くて危ないので、遊ばない、走らないように指導してるということでございます。私は、北学童のほうは、申しわけありません、見ておりません。ほ

かのところは見てるんですが、長井小学校は見えてないということで、一回見ていかなきゃいけないと思っておりますが、1つは、やはり体育館を使うべきだと思っております。その際に、今、管理棟の設計を行っておりますので、管理棟ができますと、第3校舎から2階の通路を通過して体育館に直接行けるようなルートができますので、廊下は走らないと、遊ばないと、ただ、体育館に行って遊ぶということで対応をしてもらうようにしたいなと思っております。環境としては、天気の良い日は外でも遊べますし、プールも使えますし、あと、体育館も立派なものがありますので、北学童のほうもほかの小学校に負けないうぐらいのいい環境だと思っております。

あと最後に、公共複合施設内に整備ということで、北学童のほうですね、ご提言ありましたけれども、現在財源として考えております都市再構築戦略事業では、学童クラブの整備は認められておりませんので、施設の中につくるというのは不可能でありますし、つくるとしたら単独でみたいな形になるのかなと思っておりますが、基本的に駅のほうまで歩いていかなきゃいけない。空き教室があるわけですから国の補助は受けられないということになりますので、私は、中央学童も北学童も子供が多いので、長井小学校で一括でできないかというふうなことで今後も検討したいと思っておりますが、ぜひこの学校、長井小学校の敷地というのはここも含めて大変広いので、あと第一校舎も今整備中でございますが、その中で総合的に考えていくべきなのかなというふうに思っておりますので、ぜひご理解をいただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 中田浩之商工観光課長。

○**中田浩之商工観光課長** ただいまご質問がございました中で、まず初めに、8月22日から25日までの台湾訪問の構成について申し上げます。

自治体の長といたしましては、先ほど市長の答弁にもございましたが、長井市長、南陽市長、

観光協会につきましては、高島町を除く3市4町の観光協会関係者、自治体関係では、長井市、南陽市、そして置賜総合支庁、さらにやまがた長井観光局ということで、以上20名の構成でございました。

続きまして、その母体となる組織であります置賜地域インバウンド促進会議の概要と昨年度までの経過について申し上げます。

同会議は、平成27年度より海外からのインバウンドで置賜地域全体への海外旅行客の受け入れを行うに際し、置賜地域ならではの田舎体験及び農山村への民泊体験並びに宿泊のための受け入れ体制を整備し、にぎわいの創出を目的として発足いたしました。発足当初のメンバーは、米沢市、長井市、南陽市、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の各観光協会と南陽市観光ブランド課で発足いたしました。現在、南陽市観光ブランド課が名称を変えまして南陽市商工観光課という名称になっておりますが、こちらに昨年発足しましたやまがた長井観光局が加わっての9団体での組織ということになります。

昨年度までの活動の主なものとしましては、このたび行ったような年1回の台湾への旅行商品の営業活動を行っております。昨年の営業活動は10月5日から8日まででございましたが、昨年秋の営業の成果としましては、ことし2月19日から22日に置賜さくら回廊事業の下見ツアー、先ほど市長のお話にもありましたけども、この下見ツアーで17社の旅行エージェントに加えまして、ランドオペレーター、実際旅行の各種手配を行う元締めของบริษัทになりますが、ランドオペレーター1社、そして台湾のマスコミ、カメラマンが同行して計22名が置賜地域にお越しいただきました。その際に、長井のタスパークホテルにおいてお花見体験、けん玉ひろばSPiKeにてのけん玉体験、フラワー長井線の乗車体験をしていただいたところでございます。4月22日、27日には、巨匠旅行社という会社に

よりまず久保桜のお花見体験として2便、42名の台湾人観光客にお越しいただいております。また、4月17、18、20、23日には、ライオントラベル社によるフラワー長井線乗車企画で4便、144名の台湾人観光客においでいただいているところでございます。さきの市長答弁にもありましたが、人対人の顔を合わせた営業活動を行うことによって、このように少しずつではございますが、台湾から置賜、そして長井にお越しいただいているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 金子 剛子育て推進課長。

○**金子 剛子育て推進課長** 私からは、5点ほど学童クラブについてお答えします。

市の学童クラブの利用料金については、おやつ代込みで月額5,000円となっております。置賜では、米沢市が3,000円から1万1,000円の料金設定で、平均約8,400円、南陽市は一律8,000円、高島町は平均で約1万円、川西町は平均で約8,700円、小国町と白鷹町が7,000円、飯豊町は長井市と同額の5,000円でございます。13市では、天童市が平均で1万1,000円、山形市と寒河江市が1万円台、上山市、村山市、東根市、鶴岡市が9,000円台、酒田市と新庄市が7,000円台、尾花沢市と長井市が同様で5,000円で最も低い料金設定となっております。

次に、民間で開設している学童クラブの利用状況について。長井市には民間の学童クラブが2施設ございます。認定こども園めぐみ幼稚園内のめぐみ学童クラブと高野町にあります長井あやめ放課後学童クラブで、これ以外の民間の学童クラブはございません。めぐみ学童クラブについては、利用料金、月額1万円、現在29人のお子さんが利用してございます。長井あやめ放課後学童クラブについては月額料金5,000円ですが、現在は2人のお子さんが土曜日のみの利用をしているということで、この場合の料金は1日500円となっております。

次に、利用している人数に対して支援員の人

数は適正なのかというご質問ですが、学童クラブについては、おおむね40人を上限とした支援の単位がございます。この1つの支援の単位には2人以上の支援員、職員がつくことになっておりまして、これに発達支援が必要な児童が利用する場合は補助員として加配することになります。北学童クラブは3つのクラスがあり、それぞれ3人の職員が配置となっております。なお、北学童クラブについては、今年度に入ってから1つのクラスで職員が2人交代したということもあり、なかなか落ちついていない状況にあるというふうにお聞きしております。お互いに利用者と支援員がなれてくれば、いずれ落ちつくことも予想されますが、必要に応じて職員の加配等も行っていきたいというふうを考えております。

4つ目に、男性支援員の雇用についてどう考えるかということですが、現在2人の男性支援員をお願いしております。過去にも数人男性の支援員はいらっしゃいます。支援員の募集については、市の直営でも社会福祉協議会のほうでも性別や年齢を限定して募集してはございません。応募された方を面接して審査の上、採用している状況にあります。男性が少ないのは、男性の応募そのものが少ないことによるものでありまして、特に男性を敬遠しているわけではありません。議員おっしゃるとおり、男性支援員の利点も大きく、大変歓迎するところでありますので、今後も応募があれば積極的に採用したいというふうを考えてございます。

質問の5番目になります。学童クラブ間の連携や支援員の交流、学校との連携、学童クラブと家庭との連携、三者同時の連携はあるのか、あるとすれば窓口はどこかというご質問ですが、市が主催する学童クラブの支援員の研修会は年2回開催しておりまして、その都度、情報交換会の日程を組んでございます。お互い顔見知りになっておりますので、情報交換会以外でのや

りとりもあるものと考えております。

学校との連携についてですが、主となる支援員が、小学校の主に教頭先生を窓口として児童の健康面などの情報共有を図ることになっております。また、必要に応じて学童支援員と学校との連絡会を開催することとしており、今年度は6月に1件開催しております。

学童クラブと家庭との連携について、保護者が児童のお迎えに来た際に連絡事項などをお伝えするほか、保護者からの相談に応じております。また、中央学童クラブの場合は保護者会があり、親子行事などを開催しているということです。学童と学校、家庭の三者同時の連携があるのかということについてですが、これまでは実施しておりませんでした。ただ、要望があれば、教育委員会とも協議の上、子育て推進課を窓口として実施していきたいというふうを考えております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** それぞれご答弁ありがとうございました。

インバウンドにつきましては、長井市独自としてはまだこれからということで、市長のお考えをお聞きしたんですけども、2020年のオリンピックに向けまして、やはり応援団として外国人がいっぱいいらっしゃると思います、日本のほうに。やはり早目にこの長井のよさもアピールする必要があると思いますけども、市長はどのように考えられますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木議員おっしゃるように、ホストタウンにも登録しておりますし、あと、ホストタウンはタンザニア国でございますので、なかなか観光でいらっしゃる方というのは難しいかなと思っております。一方で、姉妹都市であるバート・ゼッキンゲン、そしてバート・ゼッキンゲンのヨーロッパの姉妹都市が4市ありますので、そちらの方々にはぜひ招待状等々を

送って、行政ではなく、市民の皆様にお越しいただけるようなことを考えてます。あと、中国もあると思います。

あと一方で、とにかく今現在、昨年度2,400万人ですよね。それが4,000万人は確実に超えるだろうと。今の観光地はもう宿泊とか、少し法規制が解除されて受け入れ体制がよくなると思うんですが、当然私ども地方にも大きなチャンスでございますので、これをどうするかということを考えていきたいと。やっぱり長井の場合は、インバウンドの以前にまず観光客を受け入れるということ自体が、何ていうんでしょうか、おもてなしの心は非常にあるんですけども、経済活動としての観光についてはようやく緒についたばかりだと思っております。観光を主に、失礼ですけども、商売をなさっている方は少ないと思っておりますので、ですからそういう状況の中でインバウンドを掲げても実態がないと。ですから市の商工観光課、観光協会、そしてやまがた長井観光局と合わせて、やっぱり今後どうするかという市民を交えた、行政側で幾ら音頭をとってもだめなわけで、そういったところの部分を早速スタートしなきゃいけないなと考えております。議員おっしゃるように、ぜひインバウンドを受け入れるようにして地域にお金も落ちるような、そんな取り組みにしていきたいと思えます。ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひよろしくお願ひします。観光局ができたんですから、やはり一生懸命みんなで作っていかなくちゃいけないなと私は思えます。

それで、先ほど市長が、民宿はちょっと難しかなとおっしゃっていましたが、ゲストハウスってすばらしい。あちこちでもやっていますし、気軽にできると思えますので、ぜひその辺も力を入れていってほしいんですけども、

地域おこし協力隊の方々が今いらっしゃるわけですね。そういう方が、せっかく長井にいらして、長井で3年間一生懸命仕事をなされて、戻っていかれる方が多いんですけど、そういう地域、市ですけど、地域で民宿とかゲストハウスとかの経営を、いろんな面で今から積み上げていけば、その方も残れる道があるんじゃないかなと私は思うんですけども、市長はどうお考えになりますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木議員おっしゃるように、地域おこし協力隊で、ようやく5人目で定着していますかね、結婚もされて、地元の方と、それでお店を開いたという、佐藤さんですね。大変うれしく思っています。

やはりこれから地域おこし協力隊を再度、来年に向けて募集を今しようとして準備しておりますが、その中で、ぜひそういった、農家民宿とは限らないと思えますけども、空き家とかですね、あるいは空き店舗などを活用した商売を将来なさるとか、そういった準備といたしますか、経営も研修等々も含めてやっていただけるような隊員なども募集したいなど。

あとは、ご承知のとおり、タスの2階のほうにインキュベーション、i-b a yがあるわけですから、そういったところでも支援し、なおかつ長井で何か商売を始めたいとか事業をやりたいという人の卵を地域おこし協力隊で連れてくるというやり方もあるんですね。実際そういうふうに行っている市町村もありますので、ぜひそういった可能性を含めて検討していきたいと思えます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** やはり観光って大事だと思いますので、ぜひ皆さんでやっていければと思いますので、ぜひ今後よろしくお願ひしたいと思えます。

この間テレビで、県知事が山形空港のほうに

台湾の旅行客をお迎えしておられた映像が映っていましたが、やはり知事も一生懸命やっておられますので、長井市もぜひ手を挙げて頑張っていってほしいと思います。

花が大好きだと先ほど商工観光課長がおっしゃいましたので、花に関しては商工観光課のほうも一生懸命、毎年ですけど、駅前に講習をしながら花を植えていますけども、ちょっと今、頭打ちみたいな気がするので、ぜひコマース、花いっぱい運動のコマースなどもっと工夫して、今後やっていただきたいと思いますが、市長、その辺どうでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木議員ご指摘のとおり、行革、財政再建で、花いっぱい運動のコンクールというのをやめたんですね。それは非常に残念だったなと思います。そんなにお金かからないのに何でやめちゃったのかなというふうに残念ですが、今度は違った形で市民の皆さんにまちなかを花でいっぱいにしてほしいということから、玉崎先生をお願いして、どちらかというとガーデンのような、やっぱり今主流の花いっぱい運動というのは、ほとんど1年草なんですね。それを植えて、次の年は植えかえしなきゃいけない。ただ、ガーデンということですから、いろんな組み合わせですから、そこに手をかければかけるほどよくなっていくという考え方から、ガーデンを進めてきたんですけども、ぜひ来年以降、特に3年後の東京オリンピック・パラリンピックのときにはですね、どういった形でお迎えしたらいいのか、やっぱりそういうことを、これも地域おこし協力隊でガーデニング好きな人、例えばガーデンをやりたい人とかですね、募集したんですが、集まんなかったんですね。これ、この辺なんかも課題なんですけども、インバウンドもそうなんですけども、人材がないんですね。インバウンドをやるには、例えば台湾から連れてくるには、向こうのエージェントは

もちろんですけども、こちらでもある程度台湾語とかね、堪能な人とか、台湾の事情とか台湾の人たちのことをよくわかる人がいないとやっぱり気がつかないとかですね、花もそうなんですけども、それを指導してくれる人間がきちんといないとだめだとか、人の問題が非常にあるのかなど。そこをぜひ克服して、3年後に向けて、来年の春から新しい取り組みをぜひできるように検討していきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひよろしくお願ひします。どこかにいると思いますので、発掘してほしいと思います。

それでは、学童クラブについてですが、先ほど事情をいろいろお聞きして、やはりいろいろあると思いますけども、やはり学校との連携がうまくいっていないような私はちょっと気がするんですけども、学校は学校、学童は学童って、きちんとした何か決まりがあった中での連携がうまくいっていないような、長井北学童に限らずですけど、あると思いますので、もう一度その連携などをいろいろ調べていただきまして、ぜひ過ごしやすい子供たちの環境をつくっていただきたいと思います。

料金について課長にお伺いしたときに、ほかの市町村と比べて本当安くて、お母さんたちが安心して働けるんだなということ高く評価したいと思います。

私が西学童と言ったのは、あやめ学童クラブって、せっかく西にあるんですけど、結局西側に歩いて行くのは大変ですけど、結局南も歩いて行く。中道とか線路のあっち側の人もいらっしやると思うので、西学童は必要でないかなとちょっと思ったので提案したところでしたけども、施設の中はやっぱり補助金関係で無理だとお聞きしましたので、ぜひあやめ学童を生かすような手だてはあるのかどうか、市長にお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** あやめ学童を生かすというのは、やっぱりおっしゃるとおりだと思います。頑張っ
てやっていただいておりますので、何か支援
したいなというふうな気持ちはあります。前に、
やめられましたけども、うえるキッズ。夜遅く
までなさっているところがあって、そういうご
家庭の事情もあるんだろうなということで、補
助金なども単独でお願いしながら、送迎もして
くださったんですね。非常に期待しておったん
ですが、どういうわけかやめられまして。この
あやめ学童さんですね、この方が、そこに働い
ていた1人の方が頑張っ
てやっておられるとい
うことなんで、もう少し制度化して、やっぱり
夜遅くまでという事情がある方などが、PRし
てですね、そういったところで預かっていただ
くような支援なども行っていきたいと思います。

あと、鈴木議員おっしゃるように、ちょっと
学校側を批判するわけじゃないんですが、長井
市の場合は、民間ではなくて行政主導で最初か
らやっているんですね。ほかの市町村はどちら
かという民間が多かったんで、料金は高目で
すが、今から10年前ですね。私が就任したとき
に、学童クラブは非常に安かったんですよ、長
井市だけが。おやつ代が2,000円だったかな。
2,000円ですね。あと3,000円で預かっていたの
で、これ値上げのあれを出したんですが、議会
が否決していただきました。助かりました。や
りたくなかったんですが、そんなことで、今頑
張っているんですが、児童センターで最初やっ
ていたもんですから、そうすると学童クラブっ
てというのは福祉のほうでやるんだという考え
方が学校側にあったんですよ。ですから、何か
学校側に協力してもらいたい形で、非常に
おかしな話です。ただ、国のほうが制度が変わ
りまして、今度は学校側がしっかりと受け入れ
るんだぞと。こういうことになりまして、空き
教室などもやっ
と使えるようになったんですが、

実は五、六年前まではもう絶対だめだみたいな
ことで、私たちは関係ありませんみたいな、そ
んな感じだったんですけども、ようやく今度一
緒になってできるようになりましたので、今後
は学校側と一体で進めていくことになるかと思
います。ぜひいろいろご提言などいただければ
というふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** やはり長井市にとつ
てもじゃないですけど、子供は宝ですよ、やっ
ぱり。なので、この子供たちが本当に住みやす
い環境をつくっていくにはどうしたらいいかとい
うことは、やっぱり学校側だ、福祉だというふ
うに分けないで、みんなで考えていくべきだと
私は思います。

やはり西根学童につきましても学校の教室を
していただきましたけど、35人がぎゅうぎゅう
詰まっています、何かかわいそうな気がした
んですけど、その辺についても今後考えていた
だきたいなど。それぞれの学童はあるんですけ
ど、やはりもうちょっと、先ほど言ったように、
市と学童とかみんな一体になって、保護者もで
すけど、真剣に考えていただきたいと私は思
います。

それぞれ、北学童の支援員については、先ほ
ど課長から説明ありましたが、あれで足りて
いるんでしょうかね。その点についてどうです
か、課長。

○**渋谷佐輔議長** 金子 剛子育て推進課長。

○**金子 剛子育て推進課長** それぞれの北学童に
ついては、1クラス35人ずつの配置ということ
になっております。先ほど申し上げましたとお
り、40人が上限の一支援の単位ということで、
十分ということにはならないとしても、充足し
ているというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 決まりはあると思
いますけど、臨時でもいいので、もうちょっと私は、

支援員の方がいればいいなと思いますけど、市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 就学時前の子供ではありませんので、園児じゃないので、これ小学生で、大体10人に1人ぐらいですよ。やっぱりそこは今後どんどんお子さんがふえた場合どうするかですけども、もう少し長井市独自でその支援員の方たちの役割分担とかですね、あとルール。ルールがきちんとしていないんじゃないかなというふうに思うんですね。例えば、塾じゃありませんので何とも言えないんですけども、宿題をする子もいれば、本を読む子もいれば、遊びたい子もいれば、いろんなことがあっていいんですけども、そこにルールがちゃんとあって、それをですね、子供たちは学校が終わったということによって解放感があると思うんですね。その気持ちはわかるんですけども、ただ、支援員をいっぱいふやしたからいいかという、必ずしもそうじゃないのかなというふうに思いますが、この辺はやっぱり現場の指導員の方々とか、あるいは担当課、学校側とも相談しながら、制度的には何人に1人という基準はありますけども、長井のやり方についてちょっといろいろ検討して、必要だったら、子供たちのためですから、それは増員もしなきゃいけないというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 大変ありがとうございます。子供の数はこれから減っていくんですけども、学童のニーズは本当に高くなっていると思いますので、ぜひ長井市独自でもいいので、子供たちが安心して放課後過ごせるようなほうに持って行っていったらいいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

内谷邦彦議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 創生会の内谷邦彦です。早速質問をさせていただきます。

近年、台風や気候変動など、さまざまな要因による豪雨被害が多発しております。最近では、平成29年7月5日より発生しました九州北部豪雨災害、7月22日秋田豪雨災害など、どこで起こっても不思議でない状況となっており、長井市でも起こる可能性があります。防災全般に関して質問いたします。

まず、7月に配布されました防災ラジオについて総務参事に伺います。

全世帯に対して54%の配布率、また土砂災害ハザードマップが発行されている西根地区では64%、伊佐沢地区では65%の配布率となっておりますが、一方、特に中央地区の配布率の低さが目立っております。今後、この比率を上げるためにどのようになさるのか、対応策はあるのかを伺いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 齋藤環樹総務参事。

○**齋藤環樹総務参事** 初めに、経過を含めてお答え申し上げたいと思います。

防災ラジオの当初の募集を行った当初の時点では、今、議員のお話、ご質問にありましたように、配布台数は5,500台程度、配布率は56%程度と。それから、ご指摘のとおり、地域、地区によりばらつきがあったということでございます。正直なところ、5月に各地区長さんに配布希望調査をお願いいたしました時点では、市民の方々へのお知らせ、それがどうも不足していたなど。そんな不足の感が否めなかったなど感じているところでございます。